

令和5年度 学校評価表

学校経営目標	子供がわくわく 教職員が働きがいのある学校
学校教育目標	笑顔生み出す児童の育成
めざす子供像	挑戦する子供・体験をもとに気づく子供・対話を通じて考える子供

4・・・101%～ 3・・・80～100% 2・・・60～79% 1・・・60%未満

目標		実践		評価		最終(2月)				次年度に向けて	
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目 (評価方法)	目標値		今回の達成割合	目標に対する割合	評価	成果と課題の分析	改善の方向性	
				中間	最終						
確かな学力(知)	【1】 ○確かな学力を身につけ、主体的に学び合う児童の育成 ・自己の学習を振り返り、調整しようとする。(つづがの日) ・対話を通じた学びのよさを味わう。(協調学習)	・学力補充の時間に自分の課題を把握し、学習方法や内容を自分で選択させる。  ・協調学習を取り入れた授業を実施する。	・国語科、算数科の学期末テストの結果が標準得点以上の児童の割合 ・標準学力調査の基礎項目の結果が、目標値以上の児童の割合  ・各学級年3回以上協調学習を実施する。	80% — 60%	85% 80% 100%	65% 77% 100%	76% 96% 100%	3	○学習計画表を作成したことで、児童は自分の課題を把握し、それに向けた学習計画を自分で立て、自分に合った方法を選んで学ぶ力が育ってきた。標準学力調査の結果は、昨年度より上昇しているものの、目標値にはわずかに届かなかった。  ○協調学習や自立的な学び(リーダー学習)により、対話を通して学びを深めることができた。	○問題文を読み取る力に課題があるため自立的な学びをさらに進め、自分達で課題を解決する力を付けていく。知識を活用する問題を意識した問題集を購入したので、どの学年も積極的に使っていく。  ○リーダー学習と協調学習の関連付け ⇒知識構成型ジグソー法の使いどころを考えて単元計画の中に位置づけ、より主体的・対話的で深い学びへつなげていく。	
豊かな心(徳)	【2】 ○自他を尊重し、豊かな感性と道徳性を備えた児童の育成 ○多様な他者との交流・体験活動を通して気づきをもち、考え、次の活動へつなげようとする。(体験活動・保小中連携)	・体験活動を行う中で、「特別の教科 道徳」で考えたことと密接に関連させながら、自分で気づき考え、生かせるようにしていく。	・学校アンケートにおいて、多様な体験活動(保小中連携・スペシャリストに学ぶ・地域学習等)を通して、気づき、考えたことを生かしていると回答した児童の割合	70%	80%	96%	120%	4	・児童アンケートにおいて、多様な体験活動(保小中連携・スペシャリストに学ぶ・地域学習等)を通して、気づき、考えたことを生かしていると回答した児童の割合は96%であった。水泳教室やライフル体験、スキー教室などを行った。それらの活動を通して、「特別の教科 道徳」での学びを深め、次の活動への意欲と実践力を育むことができたと考えられる。	○生活場面と関連付けたり、多様な体験活動を取り入れたりしながら、引き続き、気づき、考え、次の活動につながる意欲と実践力を育むことができるよう指導の工夫を図る。	
健やかな体(体)	【3】 ○基本的な生活習慣や、健康でたくましい体力・気力・耐力を備えた児童の育成 ○自分や周りの安心安全を自分達で作出そうとする。(生活づくり・平和学習・食育) ○目標に向かって挑戦することができる。(体力づくり)	・生活習慣(起床・就寝・家庭学習を始める時刻:3点固定)の確立  ・SDGsの目標に関連して、食品ロスについて考え、食べものを大切に育てる。  ・体力朝会を通して自分の体力を高める。 ・業間でマラソン大会の練習に取り組む。	・児童アンケートにおいて、「3点固定」ができていない児童の割合  ・健康に過ごすために、給食でいろいろな食べ物を残さずに食べようとしている児童の割合  ・昨年度の20メートルシャトルランの結果を上回る割合(中間) ・個人の目標を達成する児童の割合	80% 70% 70%	80% 80% 80%	89.4% 95.6% 74%	111% 119% 93%	4	○2学期、3学期に一度ずつ「3こて週間」を実施した。(3こて週間:自分で起きる時刻、家庭学習を始める時刻、寝る時刻を決め、家庭の協力を得ながら規則正しい生活を送る取組)12月からは月一度の「ノーマディアデー」にも取組んだ。児童がメディア利用の時間を考えたり、家族とのふれあいが持てたりしている。  ○児童の委員会が残菜調べを年間通じて随時行った。2学期後半以降給食の残菜がぐっと減り、1月は残菜なしの日も増えた。残菜が減ってきた時期に合わせて朝会等で「赤黄緑の食べ物の働き」について指導し、家庭科で栄養と成長に関わる単元を扱う事で、食べる事と成長が繋がることが実感できたと思われる  ○マラソン大会に向けて目標値に達することができなかったが、マラソン大会の練習は一人一人が目標に向かって意欲を持ち、取り組むことができた。その他にも、体力向上のために、体力朝会で長縄や学級ごとに短縄に取り組むことができた。	○健康な生活を送るための基盤となる基本的な生活習慣の確立に向けて、次年度も「3点固定」を中心に自分の生活を見つめる取組を推進していく。  ○引き続き、児童の共通の教材である学校給食を中心に、「食べる」と「成長」や「栄養」について実感を持たせ、生活に活かせるよう取り組んでいく。  ○引き続き、マラソンやなわとびの取り組みを全校または学級で取り入れ、楽しく体力向上につなげることができるよう努める。	
信頼される学校	【4】 ○教職員が協働し、地域・保護者へ新鮮な情報を発信する。 ○働き方改革を推進	・HP、学校だより、学級通信、ほけんだより等を通して、情報を発信し、確実に伝達する。  ・優先順位をつけて効率よく業務に取り組むことの習慣化を図り、時間外勤務時間が月45時間以下になるようにする。	・「学校だよりや学校ホームページなどにはよく目を通している」という保護者アンケートでの肯定的な評価の割合  ・時間外勤務が月45時間を超えない教職員の割合 ・子どもと向き合う時間が確保されていると感じる教職員の割合 ・日々の業務の中で充実感を得られている教職員の割合	80% 65% 70% 75%	93% 90% 90% 90%	94% 93% 100% 100%	101% 103% 111% 111%	4	○HP、学校だより・学級通信・保健だより等、定期的な情報発信により肯定的評価が94%であった。「すぐー」なども活用しながら、速やかに情報発信することができた。  ○時間外勤務が45時間を超えない教職員の割合は、1月末現在で93%である。見直しを持って業務に取り組むこと、優先順位をつけて効率よく業務に取り組むことなどの習慣化が図られるようになってきた。また、教職員に対する業務改善アンケートの項目に対する肯定的な割合も高く、業務への充実感が得られるようになってきた。	○引き続き、HPや各だより等を活用し、定期的な情報の発信と速く正確な情報の提供をし、信頼される学校づくりに取り組む。  ○組織としての業務改善に継続して取り組むとともに、個々の業務改善が図られるよう、校内研修等を通して意識を変えていく。 ○有効な事例や取組を共有し、限られた時間内で職務遂行ができるようにすることで、子供と向き合う時間の確保とともに、教育の質の向上に努める。	